

北海之光

5月号 北海道教区報

祝福されよ 主に信頼する人は

エレミヤ書 17章 7節

発行所 北海の光社

001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12

日本聖公会北海道教区事務所

電話 011-717-8181

FAX 011-736-8377

E-mail:hikari@nshkk-hokkaido.jp

http://www.nshkk-hokkaido.jp

発行人 植松 誠

「聖霊降臨日を迎えるにあたって」

新札幌聖ニコラス教会副牧師
札幌聖ミカエル教会副牧師

司祭 ノア 上平 更

古代メソポタミア文明は、世界四大文明の一つとして知られています。泥を干して固めたレンガを積み上げて建築材として使い始めたのはこの文明に始まったとされています。

彼らはやがて更にレンガを焼いて強度を高めて、より強固な壁を築き、より強く、より高い建造物を作ることができるようになりました。彼らが遺した「ジググラド」と呼ばれる巨大な建物は、旧約聖書の創世記第一章に語られる「町と塔(以下バベルの塔)」の原型ではないかといわれています。

バベルの塔について一般的には、天まで届くような建造物を建て、神に近づこうとした人間に怒った神が彼らの言語を混乱させて町の建設を止めさせた、これによって人類は世界中で異なる言語を話す

ようになった、と説明が終わることが多いかと思えます。

しかし聖書の記述には、もう一つ、神の介入された大切な理由が書かれていることも見逃せません。それは、人々が、この町と塔を「全地に散らされることのないようにしよう」として町と塔を築いていたということなのです。

このバベルの塔についての記述は、ノアと息子達の系図の間に書かれています。ノアとその家族への神の契約は「産めよ、増えよ、地に満ちよ」という祝福の言葉で始まります。ひとところに留まって繁栄するという人間の企ては、神の祝福の意にそぐわないものでした。

人類が自分の都合のいい場所を作ってそこに留まっていたのは神の創造の担い手としての役目を果たすことができないのです。言語を混乱させら

れた人々は、「全地に散らされた」という記述でこの物語は締めくくられています。

聖霊降臨日についての使徒言行録の記述もまた言語に関する不思議な神の業が記録されています。

突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、霊が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話しました。

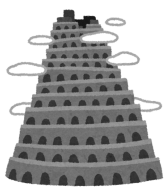
使徒言行録二：二、三四
今度の出来事は人々を混乱させるためではなく、各地から集まっていた別々の言語を話す人たちに等しく「神の偉大な業」を聞かせるためでした。

このことが起こるまで、弟子達は同じ場所に集まって、主イエスが約束された弁護者としての霊、聖霊が降るのを待ち望んでいました。神様のご計画としての聖霊降臨を、祈りながら待っていたのです。

バベルの塔を築いた人々は、「散らされないように」その町に留まるように計画を立てていましたが、弟子達は、聖霊を受けて、それぞれに霊に満たされて派遣(散ら)されていきます。

礼拝に集う私たちもまた、教会にただ留まるために集まるのではなく、霊の糧を得て、み旨を行う者として「この世に遣わしてください」と願い、送り出される、み子の枝としてキリスト・イエスに繋がって広がる、群れです。

間もなく、私たちは復活節を終えて、長い緑の期節を迎えます。聖霊は、私たちの中にあって、私たちを生かし、弱い私たちを見放すことなく、神のみ心に適う道を歩むことができるように与えられた、先導のともし火です。この火を絶やすことなく燃やし続けることができるようにそれぞれので、神を賛美し、祈り続けましょう。



—心の窓をひらく—

福音と私(二四七)

—今、なぜ、私はキリスト者として生きるのか—

有珠聖公会信徒

ヨセフ 香川 達 雄



私の好きな聖句

「こういうわけで、わたしたちもまた、このようにおびただしい証人の群れに囲まれている以上、すべての重荷や絡みつく罪をかなぐり捨てて、自分に定められている競走を忍耐強く走りぬこうではありませんか。」

ヘブライ人への手紙

一二章一節

今回、原稿依頼が来てビックリ!!さあどうしようと考え「ウーン」こまった。こまった時は流れ、締め切り期日も近



多分私が小学五年か六年生、妹たちは小学一年と二年生だったように思います。私の家は、農業で妹たちの子守は、小学六年生までの日課でした。学校

づき、頭がイタイ日が続く。

ここ最近、齢を重ねる毎に物忘れがひどくなってきたのを自分自身感じるようになってきた。自分の記憶を思い出してみてペンを走らせます。

私と教会の繋がりは、決して数の多いものではありません。頭の隅から出てこいと言っても子ども時代には、入院生活で祖母と病院生活の毎日。小学生時代は一回だけ兄妹で、夜、家から歩いて片道一時間かけてクリスマスに行つて、お菓子をもらった事が再現されるくらいです。

帰りにチョット遠回りして保育所に寄り、妹二人を迎えに行つて帰宅する日々でした。中学生からは、保育所迎えは免除になつても放課後家に帰ると仕事の手伝いが待つてい

ました。その後、社会人になり運命なのか家業を継ぎ二〇〇一年位、一生懸命努力をして農業を頑張つてきました。しかし、その間、教会の交わりはほとんどなかったと思えます。日曜日は、昼くらいに畑から昼ご飯に帰つてきても誰

もない。というのは、当時の有珠の教会は、廻り順番の家庭礼拝をしていたような。自分の家が当番の時、茶の間で礼拝。その後お茶会をしていましたね。

自分で教会へと足を運んだのは、父ヤコブ香川武が、高齢で運転が怪しくなつてから。気が付けば母は難病で入院から三年で天に召されました。それから父は月一の礼拝は、ほぼ欠かさず出席して

母・父母と代々有珠聖公会に通っていたようです。最初の木造の会堂を建て、石造りの今の会堂に建て替え、二〇〇一年の全面改装と、

代々一生懸命、奉仕を続けてきたようです。私は、先に触れましたように、父の運転手というつもりで教会に通い始めたのですが、当時有珠の管理牧師であった雨宮先生の励ましと勧めで次第に洗礼を受ける気持ちを持つように。そして二〇一三年に大町司祭より洗礼、植松主教より按手を

受けました。香川家は、代々親が死んでから教会に息子が行くようになるのが伝統だったので、父親が元気な内に洗礼を受け、信徒となれた事は、父親の喜びとなつていたように思います。以来八年、

気が付いてみると自分も月一回の礼拝には欠かさず出席するようになっていました。有珠聖公会も、父と共に通い始めた頃には、数人の礼拝。ところが今は二〇人ほどの礼拝になることも多く、様々な行事が積極的に行われるようになりまし

た。同礼拝もその一つ。かつて合同礼拝後、ジンギスカンを善光寺公園で行い、雨天の時には香川家のビニールハウスに場所を移して行われた事が懐

かしく語られる事があります。が、しばらくの間、有珠聖公会が当番教会になる事は途絶えていました。それが近年復活。合同礼拝のジンギスカンが改めて有珠での胆振三教会合同礼拝での恒例行事となりました。

教会の鐘は、二〇〇一年の改修工事で屋外に移設。最初に試しに撞いてみた父がたまたま上手に撞いたので、それ以来、鐘撞きは専ら父の仕事となりました。その父の亡き後は、私が引き継いで鐘を撞くことに。鐘の構造上、良く響くように撞くには相当のコツ

があるので、最近はやく慣れてきて、礼拝の度に有珠の街に鐘を響かせ、教会の存在を知らせています。これらの小さな働きを通して、これからも、少しでも教会の働きに対して力になれればと思つています。

常置委員会報告
 第六回 四月一二日

- 《協議事項》
- 一、コロナ感染対応に関する件
 - 二、上平更執事司祭接手に関する件
 - 三、教区礼拝に関する件
 - 四、稚内聖公会・厚岸聖オーガスチン教会に関する件
 - 五、伝道所への移行手続きを進める事とした。



主教室より

先日、北見聖ヤコブ教会の信徒Oさんが召されました。半年前の巡回では元気なお姿で、いつものように礼拝後の写真撮影もしてくださり、恒例の教会、ごどう狩りも皆と楽しく行いました。週三回の人工透析を続けながらも教会の中心信徒の一人として、牧師を支えていてくださった方でした。

Oさんはキリスト教の大学に入学されるまではキリスト教とは無縁の方でしたが、大学の寮の同室が甲斐博邦青年で、彼に誘われて礼拝や聖書研究に出て、キリスト教に触れるようになり、そして、後に甲斐司祭が北見の管理牧師として来

- ・ による感染の広がり留意しながら対策を継続することとした。
- ・ 二、上平更執事司祭接手に関する件
- ・ 教区礼拝の中で司祭接手式を行う予定を確認した。
- ・ 三、教区礼拝に関する件
- ・ 式典長を吉野暁生司祭とすると共に、説教者の人選は主教に一任することとした。
- ・ 四、稚内聖公会・厚岸聖オーガスチン教会に関する件
- ・ 伝道所への移行手続きを進める事とした。

られてから、教会の信徒になられました。

葬儀の日には別の信徒Tさんから聞きしたところによると、亡くなられる前日の日曜日、教会ではTさんとOさんのお二人での「み言葉の礼拝」。その後、Tさんは息子さんの車でOさんをお宅までお送りしたとのこと。その翌日のご逝去でした。

私はその話を聞き、魂が揺さぶられるような感動を覚えました。私が巡回で参ります時は、一〇数人の信徒さんたちと共に礼拝をお捧げします。でも、ご高齢の方も多く、「み言葉の礼拝」となると、恐らくなかなかその人数が集まるのは難しいと推察します。けれどもそのような状況の中、この日曜日にお二人で

礼拝をお捧げくださったことは、どんなに細々とした礼拝であっても、「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである」(マタイ一八・二〇)というみ言葉が生き生きと迫ってくるのです。

このコロナ禍、礼拝を守ることの困難さを私たち誰もが痛感しています。礼拝に行きたくても家に留まらざるを得ない方々もたくさんおられます。そのような中で、まさに命がけて小さな群れに一粒の麦を落とすてくださったOさんから、この教会を温かいまなざしで包んでいてくださる神の存在を確かに感じたのでした。

主教 ナタナエル 植松 誠

公 示

救主降生2021年5月11日
 日本聖公会北海道教区
 主教 ナタナエル 植松 誠

司祭 ノア 上 平 更

2021年5月14日付で、新札幌聖ニコラス教会及び札幌聖ミカエル教会牧師補の任を解き、同15日付で、新札幌聖ニコラス教会及び札幌聖ミカエル教会副牧師に任ずる。

以上



- ・ 五、「宣教協働区」「伝道教区」に関する件
- ・ 「教役者の集い」で話し合われたことに基づき協議した。

**十 教区逝去教役者
 記念聖餐式**

六月九日(水)

午前一〇時三〇分

於 主教座聖堂

次の方々を覚えて祈ります。

司祭 渡 邊 英 治

伝道師 元 城 佐吉郎

一九二四年六月二八日

執事 本 田 憲 之

一九一八年六月三〇日



▽岩見沢聖十字教会

わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は死んでも生きるので。ヨハネ一・二二五

四月四日、池田亨司祭司式による復活日礼拝。共に喜びを分かち合う。

九日、入園式。コロナ禍の中、お友達と保護者が喜びに包まれ登園。どの子も笑顔。

今年度、三名の新しい先生が加わる。年少・森谷絵里香先生、年長・松本香先生、満三歳と未就園・福田美幸先生。どうぞ宜しくお願いします。

下旬、年少と未就園にRSウイルス罹患者が急増。学級閉鎖をして感染予防を徹底。

▽旭川聖マルコ教会

四日、イースター礼拝が行

われ、奉献の時には久し振りに聖歌が歌われ、歌声が聖堂に満たされました。礼拝堂入り口には、信徒の思いを綴るイースターメッセージボードが設置されました。「婦人会だより」第五二号が発行されました。バラエティーに富んだ誌面になりました。

六日、保育園入園式が行われ、八名の新入園児を迎えました。一日、永谷亮管理司祭による初めての聖餐式が行われました。四月末、園庭には、鯉のぼりが上がり、桜がはや、満開に咲きました、来年はお花見会ができますように。

▽釧路聖パウロ教会

▽厚岸聖オーガスチン教会

「只今からサムエル吉野暁生司祭の牧師任命式を執り行います」。

植松主教の声有礼拝堂に響きました。四月十八日、復活節第三主日午前一〇時半。

パウロ教会においては約一〇年ぶりのこととて普段に増して大勢の信徒が集まり、礼拝堂は新たな歴史初日の感

動に包まれました。

説教は新任牧師、という決まりで吉野司祭。また司式はJ.Rが大津警報で運行中止の中、車で駆け付けて下さった植松主教が。式後、久し振りに記念撮影。

コロナ禍で盛大な歓迎会は出来ませんでした。印象深い一日となりました。感謝。

吉野司祭には「できるだけ早く釧路の街に慣れて頂き、同時に信徒との交流を深めてよりよい教会に」が信徒達の願い。さらに一緒に着任した二匹の黒猫ちゃんにも大きな期待が。松井前司祭の愛犬「ポール」同様、豊かな癒しを貰えそうです。

春爛漫の釧路です。

▽小樽聖公会
四月四日(日)復活日を一同よろこびのうちに迎えました。大斎節の間控えていた聖歌は節数を減らしてですが三曲、こちらも復活。大声にならないよう気をつけながらでしたが、やはり歌えるのは楽しいですね。昨年に続いて飲食を伴う祝会を行うことはで

きませんでした。イースターエッグを各自持ち帰りました。

永谷司祭は第二主日に旭川聖マルコ教会、第四主日には深川聖三一教会と留萌キリスト教会へ礼拝奉仕と管理用務のため出張でした。健康と交通の安全をお祈りします。

▽新冠聖フランシス教会

四月四日、イースターです。みんな主のご復活を心から喜び合いましたが、昨年に引き続きお祝いの愛餐会は割愛です。でも、イースターエッグとヨーグルトゼリーが配られました。

一八日(復活節第三主日)の礼拝後には婦人たちが集って「ミニバザー」でした。コロナ禍でバザーを実施することが出来ないでられる他教会からの提供物です。

次の礼拝日は五月九日になります。「もう、朝ストープを点けなくていいな」―小泉さん、ご苦労さまでした。

▽帯広聖公会
帯広は例年より一〇日ほど早く桜の開花宣言が出され、

春の訪れを感じています。四月には、イースターの聖餐式が行われ、多数の信徒でキリストの復活をお祝いしました。九日に教友天倉一人さんが逝去されました。魂の平安を祈ります。二五日には、植松主教による阿部恵子司祭の牧師任命式が行われ、阿部司祭が「ジャンヌ・ダルクのよ

うに力強く帯広聖公会を導くリーダーになりたい。」とおっしゃられると、信徒一同が温かい拍手を送りました。今後の阿部司祭のお働きに神様の豊かな祝福がありますように。

▽稚内聖公会
四月一日、待望のイースター礼拝。旭川からの「イースター・キャラバン」は今年も中止。代わりにというわけではないけれども、旭川から教会境内の桜の小枝を持参、聖卓前に活けると咲きました！三週間も早い開花です。文字通りイースター礼拝に花を添えてくれましたね。礼拝後感染予防に配慮しながらの小さなパーティー。紅茶で乾杯、

主の復活を祝いました。空気が澄んで、サハリン島がくつきりと見えます。かの国でも人々が復活祭を祝っているのでしょうか。

▽札幌キリスト教会

四月一日より三浦千晴聖職候補生が着任。復活日、四回の礼拝が行われ、合計約一五〇名が出席。イースターエッグの配布、ヴァイオリン奏奏や赤飯販売も行われ、教会が笑顔で溢れました。復活日の聖歌を納めたCDを作成し、歌詞の冊子とともに配りました。毎週木曜の一時〜一時半にはパイプオルガンコンサートが始まり、「マルシェ」に続き、婦人会「お仕事会」の再開など、元気に頑張っています。四月二十七日、オネシモ三野紀雄さんご逝去。教会で葬儀が営まれ、霊の平安とご遺族の慰めを祈りました。

▽札幌聖ミカエル教会

聖週の聖なる三日間を過ごし、待望の復活日礼拝を守る。今年も午前二回、午後一回の聖餐式で一二〇名ほどの

出席、コロナ禍からの回復、復活を共に祈る。日曜学校も感染に注意しながら行っています。一〇日、旧国際青年寮、牧師館の解体を前に、教会の備品の廃棄、借りた倉庫への移動作業を三〇名で行う。想いの詰まった二つの建物への郷愁が募ります。牧師は徒歩二分のマンションに引越しし、幼稚園の建て替え、新牧師館の完成を待ちます。幼稚園は新入園児を迎えて始動しました。園舎建築工事もあり、今年度は激動の一年になりました。どうぞお祈りください。

▽新札幌聖ニコラス教会

四日、卵の飾りつけを前週に終え、二二名の出席を得て横山司祭の司式の元、イースターを祝う。昨年は作れなかった卵を用意してお配りすることができました。五月の植松主教巡回日に向けて現在三名の堅信志願者が与えられ、教会と信仰についてオンライン学習会を実施中。聖霊の導きが与えられますように。札幌聖ミカエル教会の施設新設にあたりLEDの照明

など献品いただき、教会省エネ化も一歩前進。

▽苫小牧聖ルカ教会

復活日礼拝、七年間聖ルカ教会に積極的に新しい風を取り入れてきた吉野司祭の最後の司式となった。釧路での活躍を祈ります。

一日は植松主教の司式により松井司祭の牧師就任式が行われた。動かぬ信徒、動けぬ信徒もいる聖ルカ教会での働きはご苦労もあるかと思われませんが、動ける信徒もおります。共に夢のある教会を築いていきたいものです。

▽函館聖ヨハネ教会

コロナ禍での換気、新しい風に寒いと不満を漏らすのか、風の向こうに希望を見るのか、私達が問われている。

イースターの子どもたちの劇が、感動的でしたよ。

藤井司祭のお孫さんのアカリちゃん・ヒマリちゃん・シシちゃんの名演技。ご覧にいたかったですね。ヒマリちゃんは最後のセリフを自分で考えて立派に演じきりました。

さて、藤井司祭五〇年勤続のお祝い(金祝)を信徒有志一同で行いました。内容は、温泉旅館一泊プレゼントでしたが、司祭・直さんご夫婦はホテルエピソードで寛がれました。司祭の腰痛も消え、感謝です。

丸山さんの指揮でホールの床磨きが始まりました。庭の花々もチューリップをはじめ美しく咲き誇っています。

▽平取聖公会

早い雪解けで平取の町はエゾムラサキツツジが早く咲き終わり、ゴールデンウイーク前にエゾヤマザクラが咲きました。柳の緑は綺麗ですが牧草は伸びが遅いようです。礼拝の祭壇にはイースターからお花が復活しましたのでこれらの木の花も飾られています。教会や信徒家庭の花壇の花が順番待ちしています。

上平更執事の司祭接手のお知らせが届きました。父上仁志司祭の平取在任中のクリスマスにギター伴奏で歌ってくださいました。司祭接手おめでと

うございます。講壇交換の機会があれば喜んでお迎えしたいと思います。

▽紋別聖マリヤ教会

四月の雪、ゆき、ユキ、春なのに、寒暖の差が激しく体調管理の難しいこの頃です。コロナウイルス感染症が発生し二度目のイースター。四月四日は植松主教様ご夫妻を迎えてのイースター礼拝。礼拝後、愛餐会を開きました。少人数だからこそできることかもしれません。幼稚園も一三名の新入園児を迎え入園式を終えました。園にも子どもたちの声が響き渡り、癒やされる毎日です。変異株が猛威を振るい、より一層の対策が迫られる中、教会、幼稚園ともにどこまでできるか、どうやったらできるか、ひとつずつ考えながら歩む日々です。主教様は月に二度三度と紋別に来られます。道中の安全を祈るとともに、ともに礼拝で

▽有珠聖公会

四月四日、午後五時より復活日の礼拝。二三名集い共に

祝う。札幌より聖ミカエル教会の出町さんがサーバーに、オルガンに札幌キリスト教会の荒尾さんの来援を受け感謝。

一六日、教会廻りの樹木の枝払い作業を共にする。木々に囲まれた風情を残しながらも、教会の姿がくっきり見えるようになりました。

二五日、定例の聖餐式。礼拝後、翌月の主教巡回に合わせて洗礼・堅信を予定しているお二人を囲んだ洗礼準備会に信徒も参加、信仰生活と祈禱書について学びました。

▽留萌キリスト教会

四月四日イースター、名寄の藤井さん夫妻、旭川在住の藤井信人さん、一麻くん(新一年生)親子が久しぶりに礼拝にご出席。ゲストも訪れて一〇名の礼拝が出来ました。

婦人会提供でお弁当が用意

され、折よく隣の床屋が外壁工事の挨拶にベツトボトルのお茶をくださり、イースターエッグも添えられて、嬉しい土産を手には皆笑顔でした。

二五日、永谷管理牧師を迎

えて午後二時から主日礼拝と教会委員会。今後の委員会は、リモートで永谷司祭と繋げて行う予定です。

▽室蘭聖マタイ教会

四月四日、復活日の礼拝が午後三時より吉野司祭の司式により行われました。これを最後に司祭は釧路に転勤されます。今後は第二主日に苦小牧より松井司祭、第四主日に札幌より大町司祭がお出でくださいます。最近コロナの関係で教会に行く機会も少なくなり、聖書に接する事も減りがちと思いますが、山本兄が管区発行の教会暦日課長を増刷してくださり皆に配布してくれました。これで聖書を朝夕読むと、本当に聖書の奥深さを知らされ、信仰が強められます。もう少しの辛抱です、頑張りましょう。

▽北見聖ヤコブ教会

春ののどかさの日々かと思つたら、みぞれ混じりの強風に驚く北見です。四月四日主の御復活を一四名でお祝い。感染予防のため会食はしませんでしたが、短く茶菓

のお交わりをいたしました。二四日窓の雪囲いを外し、台所が明るくなりました。二六日の夜ガブリエル岡嘉彦さんが急逝。ご遺族は勿論、教会の私たちも心の整理が出来ぬまま二九日・三〇日とご葬儀が執り行われました。通夜の祈りには主教様の愛と希望の説教に一同感謝。魂の平安と永遠の光明がありますように。

▽網走聖ヘテロ教会

ふと外を見ると土の中から草花の芽が顔を出すのを見て、春を感じます。四日復活日、網走聖ペテロ教会は司祭の都合により翌週の一日に主イエス様の御復活をお祝いしました。ホームの子ども達、職員も出席、礼拝堂ににぎやかな声があびぎきました。ペテロ教会では集会室カーテン洗い、掃除、勉強会も御言葉を通し日々の恵みをいただいています。駐車場も冬に対する困難さから解放され、ほぼ満車、教会を支える大きな恵みに感謝。近々白線路面の修繕を行い安心して駐車利用して

欲しいです。

▽深川聖三一教会

四月三日深川あけほの保育園第四九回入園進級式、地上に於ける小さな天国キリストの花園にかわいい坊やとお嬢さんたちようこそ。一緒に遊びましょう。七日同職員会議。園内研修は岸本保育士による「フツ化物洗口について」指導がある。二五日永谷亮新任管理司祭初来訪され心あたたまる説教をいただく。一同大歓迎。当日の福音書は有名な羊飼主イエス。良い牧者と共に歩みます。二八日対面画像で永谷管理司祭臨席で道北分区教役者会開催。今年の豪雪で破損被害甚大。

▽今金インマヌエル教会

四月一日、イースター、今金必須の種の祝福礼拝が、植松主教巡回に合わせて行われました。秋には皆、笑顔で収穫を迎える事が出来ますように。同日には藤井先生の司祭接手五〇年のお祝い。ささやかですがお花と贈り物をさせて頂く。お体のご自愛と道中の安全をお祈りしていま

す。二五日は礼拝前に作業。藤井先生、直さん他三名奉仕。平野兄より檜一本植樹。栗の木も一本。花壇の準備も同日に行い、今回は種だんごを作つての種まきを計画しています。

▽聖マーガレット教会

四月四日(日)、復活日聖餐式。四〇人を越える出席者。窓を開けて、換気に注意。三浦千晴聖職候補生が初勤務。出席者に婦人会より、イースターエッグと手作りブラウニーをプレゼント。

一七日(土)、最年長者のルカ大村茂夫さんご逝去。百三歳。北大医学部一八期生として戦時下卒業。同期学友一八名戦死。医師としての人生を全うされる。遺言によりご自宅にて葬送式。

一八日(日)、復活節第三主日。み言葉の礼拝において三浦千晴聖職候補生が福音書に基づく奨励の奉仕。

